

四條畷市教育委員会ニュース

内容：

成果をもとに、研究発表大会が開かれる

「使える英語プロジェクト研究大会」

「四條畷あおぞら幼稚園で研究保育」

「CSTによる理科教員研修会」

「支援事業第2回北河内事業報告会」

成果をもとに、研究発表大会が開かれる

○「使える英語プロジェクト 研究発表大会」

1月15日（水）、「使える英語プロジェクト事業」の研究発表大会が開かれました。

平成23年度からすべての小学校で、5・6年生対象に週1時間の外国語活動が本格的に始まりましたが、この「使える英語プロジェクト事業」は、大阪府教育委員会が府内50中学校区を実践研究校に指定し、「聞く」「話す」「読む」「書く」の技能をバランスよく教えることで、子どもたちのコミュニケーション力を豊かなものにするために実施されてきました。

四條畷市においては、小学校外国語活動の授業をスムーズに行うため、四條畷中学校・四條畷小学校・忍ヶ丘小学校において、大阪府教育委員会の指定のもと、先行的に研究をすすめてきました。

今回の研究発表大会は、四條畷中学校を会場校として、四條畷小学校・忍ヶ丘小学校・四條畷中学校による公開授業（5会場）が行われ、そのあとの分科会では、指導助言者の信田清志指導主事（大阪府教育委員会小中学校課）・吉田直美副理事長（特定非営利活動法人グラスルーツ）・南部潔室長（大阪府教育センター学力向上推進室）の指導助言のもと、熱心に研究協議が行われました。



忍ヶ丘小学校・四條畷小学校6年生の公開授業

四條畷中学校 1年生・2年生・3年生の公開授業

また、体育館での全体会では、指導助言者による各分科会の報告と、南部潔室長（大阪府教育センター学力向上推進室）による講演がありました。

小学校と中学校が相互に連携を深め、英語に慣れ親しんだ小学生たちが中学校に入学し、中学校での授業改善が進む中、生徒たちの英語に対する苦手意識が減少し、英語に興味関心を抱く生徒が増え「英語が楽しい」「少しは英語に自信を持つことができた」など、英語を学ぶ積極性が育ってきていると、評価をいただきました。



体育館で全体会が開かれました

○四條畷あおぞら幼稚園で研究保育

1月9日（木）、四條畷あおぞら幼稚園の公開研究保育が開催されました。

今年度は、「園児の豊かな心を育む幼児教育」をテーマに、異年齢交流保育（年少、年長交流活動）をとってお互いに思いやりの心を育む保育に取り組んできました。

今回の研究保育では、5歳児「にじ組」の園児対象に、担任の井藤仁美教諭による保育が公開されました。活動として、ペープサート「はしの上のおおかみ（奈街三郎作）」から、「相手に思いやりの気持ちをもって接する心地よさ」について考えさせる活動が公開されました。

園児たちは、ペープサートによる物語の展開に体乗り出して物語の世界にひたり、主人公のおおかみが、いっぽん橋を渡ろうとしたうさぎにやさしく接するようになったことを読み取っていきました。



ペープサートで「はしの上のおおかみ」

子どもたちは真剣に聞き入っています

市内保育園・幼稚園からたくさんの先生方が来られました

今回の研究保育には、市内の私立幼稚園（暁幼稚園・忍が丘幼稚園）や公私立保育園（岡部保育所・忍ヶ丘いるか保育園）の先生方もたくさん参加され、日頃の保育活動のあり方についてともに意見交換し、園児の豊かな発育について研究し合う機会となりました。

また、研究協議の指導助言として、常磐会短期大学幼児教育科講師の高橋一夫先生をお迎えし、今回の保育内容について、具体的な事例をもとに、指導助言を受けることができ、今後の保育のあり方について貴重なヒントをいただきました。



指導助言者 高橋一夫先生からは「物語にある事実の読み取りを大切に」の指摘

参加者からはたくさんの感想が寄せられました

〇コア・サイエンス・ティーチャー（CST）による理科教員研修会が開かれました

1月7日（火）、コア・サイエンス・ティーチャーによる理科教員研修会が実施されました。コア・サイエンス・ティーチャー（以下CSTと略す）とは、大阪府教育センターと大阪教育大学が共同で府内小中学校の理科教員を養成する事業で、理科離れの子どもたちを無くするために平成23年度から始められたものです。本市においては田原小学校の山田毅先生が、大阪府教育センターの理科指導者長期研修（半年間）とCST養成現職教員プログラムを受講され、平成25年度からCSTとして活動されています。



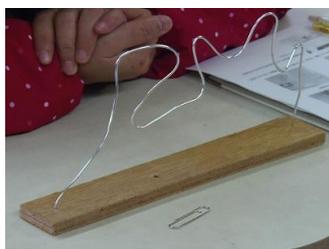
山田毅先生は、市内小中学校に科学の面白さ、追求する楽しさを体験させ、子どもたちの思考力・表現力をはぐくむ授業プランを広めておられます。

三学期始業したこの日の理科教員研修会には、小中学校の先生方が田原小学校の理科室に集まり、山田先生から模擬授業形式で、子どもたちの喜ぶ理科実験を紹介していただきました。

4年生「もののあたたまり方」では、試験管に入れた水をアルコールランプで温める実験から、部位（下・上・まん中）により水がどのようにあたたまるかを予測・観察・確かめをしていきます。

5年生「ふりこのきまり」では、ふりこの往復する時間が変化するのは、ふりこの重さやふれ幅では変化せず、ふりこの長さを変えた時であることを、実験データから見つけ出したり、

3年生「電気で明かりをつけよう」では、実際に電気を通すアルミ線でイライラ棒をつくり、遊びの中から乾電池により豆電球がともる回路の原理を学習していきました。



温める位置であたたまり方はどう違うだろうか？

アルミ線でイライラ棒を作ろう

電気を通すものを見つけよう

理科学習は、観察・実験をして終わるのではなく、獲得した知識や概念から科学的な見方・考え方を育て、日常生活の場面で活用していくことを大切にしています。

参加者の感想からは、「遊びの中から疑問を持ち、実験で知識を獲得していくような学習形態が大切」「今後も子どもたちが楽しみながら理科を学べる実験方法を研修したい」など、子どもが理科に興味・関心をもつ授業づくりを希望する声が多く寄せられました。



○「通常の学級における発達障がい等支援事業」第2回北河内地区事業報告会

1月20日(月)、四條畷東小学校において、第2回事業報告会を実施しました。

平成25・26年度、四條畷南中学校・四條畷南小学校・四條畷東小学校の三校が、大阪府教育委員会の「通常の学級における発達障がい等支援事業」の研究指定を受け、すべての子どもにとって「わかる・できる」授業づくりや学級集団づくりについて実践研究を進めてきました。

研究テーマと研究内容として

四條畷南中学校：「すべての子どもがいきいきと」

- ・小中連携の大切さ(子どもたちの体力面での課題の解決に向けて)
- ・個々の特性を考慮した楽しいクラブ活動の推進
- ・生徒のやる気を起こす授業の導入のあり方
- ・学校全体での研究体制づくり

四條畷南小学校：「南小のスタンダード作成へ」

- ・子どもの個に応じた支援の在り方
- ・学校全体で授業のスタンダードづくり

四條畷東小学校：「授業のユニバーサルデザイン化」

- ・効果的な視覚支援、指示の出し方の研究
- ・体育科で授業の実践力向上
- ・体力の向上とグループ活動の活用



第1回(平成25年8月27日市民総合体育館多目的室にて実施)に引き続き、今回は、四條畷東小学校において、1・2年生の公開授業と、全体会として体育館で、実践報告(四條畷南中学校・四條畷東小学校)・講演会(中尾繁樹教授・関西国際大学)が行われました。

四條畷東小学校では、①正しい姿勢の意識づけ → 全クラス統一の掲示物で指導



②体力向上の取組み → マラソン集会、マラソン大会、鉄棒教室…

③グループ活動 → 授業での活用、

④学習規律の統一 → **東小 みんなのやくそく (学習編)**で指導

以上の四点について、職員の共通理解のもと、系統立てた指導を行ってきました。

成果として、支援方法の工夫や教科の特性が再確認され、児童の学習意欲が向上し、自己肯定感が育ってきたこと。また、保護者との連携が深まり、きめ細かな指導につながったことが報告されました。

四條畷南中学校では、①小中学校の連携の大切さ → 小中学校連絡会と授業参観を含め実施



②クラブ活動の役割の大切さ → クラブ顧問会・クラブ懇談を開催し、運動の特性に応じた練習メニューの見直しを図る

③生徒のやる気を起こさせる導入 → 教科会・研修会・授業交流会から研究

④生徒の自尊感情を高める手立て → 認め、ほめる指導の確認

以上の四点について、教職員の意思統一のもと、学校全体の取組みについて報告がされました。

講演会では、アドバイザースタッフの中尾繁樹教授(関西国際大学)から、テーマ「みんなの特別支援教育

育～授業のユニバーサルデザイン化をめざして～」についてご講演いただきました。特に、子どもたちの学力は体力・運動能力と密接な関係があり、他市の取組み例をもとに日頃の学校生活の中で、基本的な身体能力を継続して高めることが大切と説明いただきました。大阪府教育委員会からは、「小中学校課」吉川明主任指導主事(総括主査)、的場亮介指導主事、「支援教育課」矢木克典首席指導主事、中平好美主任指導主事(総括主査)、「教育センター」関喜美史総括主任指導主事、室田澄江主任指導主事、石村和彦主任指導主事が出席され、今年度の総括と次年度への指導助言をいただきました。



四條畷南中学校と四條畷東小学校から取組み報告

多くの参加者のもと 中尾繁樹教授の講演「みんなの特別支援教育」